



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

掲示板法話

今こころは宇宙のど真ん中

皆、如来の「いとし子」です

先月、子供たちが国際宇宙ステーションの若田光一さんと会話する「宇宙宇宙教室」という催しに同席しました。各会場(東京、さいたま、神戸、岡山、高知、福岡、四日市)から子供代表が質問して若田さんが答えるまでに7秒の時間差がありました。

我々の想像を越える距離感を感じましたが、子供たちの素朴な質問にも皆、「それはいい質問ですね。有難う」と言葉を添えて丁寧に、わかりやすく答えて下さいました。四度目の宇宙滞在となる若田さんは、以前に比べて森林の減少や湖沼の枯渇化など、地球環境が悪化しつつある兆しを感じたらしく、国境を超える地球人として物事を考える広い視野に立つ必要性を強調されました。地球を離れて地球に住む子供たちにやさしく、温かい眼差しで語り掛ける若田さんの言葉は、どの子も皆、「いとし子」のように見えているのではないかと感じさせる温かさが伝わってきました。

いささか飛躍しますが、孫が鼻歌のように歌う「じっぽうみじんせい」かい

の「・・・」という親鸞聖人ご制作の和讃の世界は、この宇宙飛行士の語る世界をはるかに包み込む、無限大の視野と深さを示すのではなからうか、と連想させて頂きました。

十方微塵世界の
念仏の衆生をみそなはし
攝取して捨てざれば

阿弥陀と名づけたてまつる

(浄土和讃・弥陀経讃)

「十方(東西南北、東北、西北、東南、西南と上下)の数限りなき世界にいる念仏の衆生をご覧になり、そのすべてをおさめ取って捨てないから阿弥陀(無量)と名づけ奉らずにおれません」というように意識されます。「攝取」の「摂」は「ものの逃げるを追わえとる」こと、「取」は「迎え取る」ということですから、人間の世界を超えた深みが味わえます。親は子供に対して似たような感情を持ちますが、反抗されれば、「捨てておけ」と言いかねず、子供にどこまでも追いかけていく根気は誰しも保証できませんね。でも親鸞さまは、限りあるいのち、限りある知識の世界に生きている我

らこそ如来のお目当てであり、無限の宇宙から見れば皆一人ひとり如来さまの大切な「いとし子」ですよ、と詠まれました。

小児がんを患っている子供にお父さんは「坊よ、宇宙は無限なんよ。じやからね、どこをとつてもそこが宇宙の真ん中なんよ」と語りかけ、病の苦しみの悲しみも「何があっても大丈夫」と受け入れていく「安らぎ」の世界に触れることができた、という話を聞きました。浄土はどこか遠い所ではなく、私たちを「今、宇宙のど真ん中」だよと目覚めさせ、包み込み、捨てられることのない大慈悲の働きを実感させていただく世界となるのですね。

写真アラカルト



☆行事ご案内☆

☆ 2月の門信徒会例会

2月16日(日) 午後7時半(庫裏)

- ① お釈迦様の前世物語「ジャータカ」に見るエピソードを紹介
- ② ダーナの日に関する「無財の七施」について 庫裏仏間での例会、奮ってお出かけください。

◇キッズサンガ

2月1日(土) 午後4時 お経、ゲーム等
毎夕5時の鐘つき、年中無休。ご褒美は当たり付ガム

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見られます。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。

開設5年6か月で13万3千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話
15冊目の新刊本『お念仏申してごらん』発行! 800円

※三重組コーラス練習 西勝寺様日時未定、分かり次第連絡

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定!

※4月19日午後「初参式」を受ける赤ちゃん、幼児を大募集
千円、写真、数珠、記念誌授与。奮ってご参加下さい!

※本堂内陣天井修復中に付き、3月初めまで使えません

※予告『永代経』3月15日(土) 午後1時半と夜7時半、
16日(日) 午後1時半(講師、尾崎裕正先生・奈良)、お誘い合わせてお参り下さい。尚お経開きは15日午前10時半

坊守スケッチ

『和讃』は人生の応援歌



昨年末の紅白歌合戦を見て、皆さんはどのくらいの歌をご存知でしたか？私は殆どの歌を知りませんでした。若い男女が、激しいリズムに乗って踊ったり歌ったり。これって日本語？歌詞もはっきり聞き取れず、まるでシヨロを見ているよう。一年後には忘れ去られてしまう歌が多いのではないか？そんな風に思うのは、私が昔人間だからでしょうか？息子に「何故多くの人々が熱狂できるのか不思議でならない」というと「今の若者だって自分の好きな歌手以外は応援しないし、全く無関心さ」と返答。紅白で誰もがすぐに覚えられ、私が唯一歌えるのが『花は咲く』。東日本大震災を忘れない為にも、後世までずっと歌い継ぎたいと思います。

ところで八百年の歴史の中で、浄土真宗の門徒がずっと歌い継いできた歌があります。それは親鸞聖人によって書かれた和讃です。本来仏教経典は漢文で書かれていました。一般庶民には難しい漢字ばかりの経典では覚えられません。平安末期から鎌倉初期の庶民の間では、七五調で四句からなる今様が流行。いわば当時の流行歌です。親鸞聖人はそこに着眼されて、漢文ばかりの経典をカナ交じりの和語に修正して、人々が口ずさみ易い今様

の『和讃』に編集されました。その結果「浄土和讃」「高僧和讃」「正像末和讃」の三つからなる三帖和讃が完成しました。私達が三部経や正信偈を読む中で出てくる和讃は聖人が75歳から85歳までに書かれたものです。

私はこの和讃を仏前で経典を読むとき以外にも毎朝歌っています。散歩で垂坂山の坂道を登る時には、自然と口をついて出ます。今では十首以上の和讃を、『恩徳讃』(旧節)のメロディに乗せて歌います。すると急な坂道もなんのその。登りつめた所に朝日が出て来ようものなら、まるで仏様の光にパツと照らされたような喜びに包まれ、感激もひとしおです。お経本に頼っていた頃は、文字を追うばかりで、そのような感激は味わえませんでした。しかし体を動かし、汗を流し、声を頼りに和讃を口ずさむと、私自身がその境地に自然と引きずりこまれていくのです。

また一歳十か月の我が家の孫は、音楽法が大好き。毎日繰り返しそのCDを聞いて、すっかり覚えてしまいました。まだオムツも取れていない幼子ですら覚えられる親しみやすい和讃。「じっぼうみじん せーかいの...」「にようーらい だいひの おんどくはー」、字も読めないうちからで

も歌える和讃。和讃には不思議な魅力がたっぷりです。仏教を生活の中で身近に感じる新しい味わい方ではないでしょうか？親鸞聖人が晩年心血を注がれた『和讃』は、私や孫にとって『人生の応援歌』になっています。

☆寄稿

姫路 釈貞芳

☆ふりそそぐ 光のように 天地の恵み それは深い 大きな愛を 愛を受けて 私達は 今ここに生きる ☆通学路 変わり挨拶 出来ない中学生より 賀状頂く

Eさんのいいもの紹介

元門徒総代の伊崎栄一氏紹介の感動の歌は、息子を交通事故で亡くした滋賀県の母親の歌

☆唱えよと 教えて還る 子は知識 尊き六字 形見ともなれ

※突然の息子の死を乗り越えた母親の心境。六字は勿論「南無阿弥陀仏」。息子の死が縁となつて仏教を聞く身に導いてくれたのですね。(坊守)

今年のお年賀状より

「初日柔団家 敗無裏働」

※わずか2行の漢文の年賀状。これはある車関係の仕事をしている人から頂いたもの。皆さんはどう読めますか？答えは「ハッピー ニューイヤー、ハイブリッド」柔らかな初日が家を囲む元旦、成功の裏では、沢山の人の働きのおかげで今年も仕事ができる。感謝の気持ちで込められた賀状です。

ホットニュース

☆報恩講お朝事、今年も10数名が連日お参り下さいました。1歳10か月の孫も門徒式章を着けて参加。愛嬌を振りまいて場を和ませてくれました。

☆本堂内陣天井工事、屋根瓦一部修復工事のために、ご不便をおかけしています。2月の例会も庫裏仏間で勤めます。3月の永代経には本堂が使用できます。

☆4月19日(土)午後、『初参式』を受ける赤ちゃん、幼児を大募集！三全仏婦主催。会費千円。

【平成26年度前半善正寺主行事】

※3/15(土)16(日)『春季永代経』(尾崎裕正師・奈良)

※4/19(土)午後『初参式&降誕会』三全仏婦主催(加藤幸子師・津市)

※5/25(日)午前『総会』、午後『公開法座』(貴島信行師・大阪)

☆カンパ有難う☆

片山理兵衛様、松岡愛子様、上田ひろ子様、澤田美智江様、鈴木登代子様、他匿名様、切手や御志頂戴。

梅やみ申し上げます

★川村艶子様(1月6日亡・89歳・東京合掌)

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第二四二号をお届けします。◇寒い冬が続いています。でも二月は、光の春と言われます。時折顔をのぞかせる日の光に励まされます。うつむき、内向き、後ろ向きは人を委縮させる。軽い言葉でなく、重い言葉、温かい言葉を心掛けたい。合掌

厳しい寒さの中、連続四日間の報恩講お朝事を無事勤めることができました。一歳十ヶ月の孫も連日早起きして参加、皆さんに愛嬌を振りまいて場が和みました。普段は朝寝坊の方もこの時だけは気合を入れて早起き。浄土真宗の門徒には修行はありませんが、この方にとってはフチ寒修行、これを機会に早起きを習慣づけておまけに散歩でもしたらますます健康体になれるのではないのでしょうか？お朝事終了後、私は遅めの垂坂山散歩に出かけました。いつもは夜明け前で暗くて気付かなかったことを、昼間改めて気付かせて頂きました。沢山のNPOの人々が落葉集め、ゴミ拾い、トイレ掃除、草取り、枯木の伐採、遊歩道の整備等、利用者も気持ちよく迎える為に、骨身惜しまず働いて下さいます。本当に「おかげさま」と頭が下がります。この「御蔭様」という言葉は「蔭」の上下に「御」と「様」が付きより丁寧な感謝の意味を表わします。普通「蔭」は「光」が当たらないと出来ません。その「光」とは一体何なのか？それは仏様に照らされた「光」なのです。現代では「おかげさま」が死語のようになってしまうことが周囲を見回せば気付かなかった「御蔭様」で満ち溢れています。それら一つ一つに感謝して素直に喜べる毎日を過ごしたいものです。二十年以上毎月欠かさず発行する善正寺による皆様のご支援の御蔭様で継続ができています。今年もよろしくご愛読をお願いたします。本堂修復中に付き使用できまじせんが3月15日16日の永代経にはお参りできます。今しばらくご不便をお察しします。

平成二十六年二月 合掌 善正寺坊守 拝